

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		多機能型事業所として		公表日		令和8年 3月 3日	
		チェック項目		はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
		環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。		8	1
2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。		9		適切ではあるが、バタバタしている際に、個室に入っているタイミングでは、再度声掛けが必要な時がある。	個別対応の人数や送迎などの関係によって、遊びの場所等を限定してしまうこともある。人数は満たしているが、専門性を高めていく必要がある。	
3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。		8	1	日々の打ち合わせで環境について話し合い、その都度改善している。個室が必要な子への対応や発達特性に合わせて空間がわかりやすく仕切られている。	他事業所のホールを借りる等して対応しているが、事業所内だけで考えるとスペースが足りないと感じる。バリアフリーに関しては、現在の利用児に対してどこまで必要なのか。ただバリアフリー化すればよいと言うわけではないと考える。	
4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。		8	1	生活空間は、毎日の清掃、消毒を実施したり、活動は選択制であったりとこども達が心地よく活動できる環境だと思う。毎日の検温や手指消毒の実施で感染症対策をしている。	運動量の多い児童にとっては、もう少し広いスペースが常に提供できる環境が望ましい。参加人数によっては体を使って遊ぶプレイルームが狭く、遊びがパターン化されてしまう時がある。日々の業務で環境整備に手が回らないことがある。	
5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。		9		多目的室をリラックスできるお部屋にしたことで、気持ちの切り替えや休息に役立っている。個別のスペースを変更したことで、個々の用途に合った使い方ができている。ピースクッションやハンモックが導入されたことで、ゆったりと過ごせる空間が充実したと思う。決められた枠組みの中ではあるが、こども達が意思決定しながら生活を送れるよう工夫している。		
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。		8	1	朝の打ち合わせなどの反省時に行っていると思う。改善に努めている。	把握できていないところがある。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。		8	1	毎年の自己評価を年度末会議で周知して、必要に応じて検討している。	保護者の意向などを知る機会が少ないので、送迎時にコミュニケーションを多くとるようにしている。
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。		8	1	こどもの目線に立って考え、日々の様子は打ち合わせで共有することが出来ている。	打ち合わせ内で意見交換をする機会はあるが、意見が出しにくい時がある。職員それぞれが発現しやすい雰囲気作りがまだ必要だと感じる。
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		7	2	前年の評価結果で項目の説明を受けている。第三者評価は実施していない。	把握できていないところがある。
10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。		9		今年度は、社内研修以外にも外部での研修にも参加する機会があり、勉強になった。毎月の研修会で学ぶ機会は確保されている。	研修は、どこよりも充実していると思う。後は、職員一人一人の意識の問題で、学びたいと思った時に学べるように準備している。	
	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。		9		朝の打ち合わせなどで行っていると思う。	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。		9		児発管が実施している。直接アセスメントが摂れる年齢の児には、面談に入ってもらい、その他の場合は、アセスメントシートや面談時の聞き取りなどで実施している。	計画は立てられているが、支援員の日々の療育に十分に反映されていない部分もある。
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。		9			
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。		9		朝の打ち合わせなどで行っていると思う。その都度、児発管に聞いたり職員間で話し合ったりしている。	計画を把握できていない子もいる。個人に任せる形となってしまっている。専門的支援実施計画は、目標等を確認しながら記録できるようになっている。
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。		8	1	個別に必要なツールを準備している。	わからない

適切な支援の提供	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	9			わからない
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	9		週の担当者が立案するのではなく、全員で内容を決められているには、とても良いと思う。 月案会議で各週の活動計画を立てるので、立案していない立場でも活動内容の把握をしや	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	9		児童の反応や興味関心に合わせて活動をアレンジするようにしている。 毎週違う内容で、固定化されないように工夫している。	児発管のアドバイスを受けながら固定化しないようにしているが、支援員同士からの意見は少ないように思う。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	9		個別対応の児は、その子独自のスケジュールを提供している。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	8	1		午前の打ち合わせで役割分担するが、連携不足がある。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	7	2	支援終了直後の打ち合わせは行っていないが、気が付いた点は、残っている先生同士で共有するようにしている。	当日、翌日には振り返りを行っているが、全体に共有できていない時がある。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	8	1	成長の様子などはモニタリング記録に記入し、支援の改善につなげている。 個別の記録は、主に正職員が担当している。	記録はできているが、支援の改善までには至っていない。
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	9		定期的なモニタリング、日々の活動の中でこどもたちの様子で変更した方がよいこと等があった際には、話し合っで見直している。	
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ合わせて支援を行っているか。	8	1		自分自身が「4つの基本活動」を理解していないと思う。
関係機関や保護者との連携	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	9		活動の選択は、通所時の楽しみの1つになっていて、とても良いと思う。 ととてタイム等、選択制を用いている。 静と動の活動が自分で選択できるようになっている。	
	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	9		管理者、児発管が参加している。	
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	8	1	管理者、児発管が連携をとっている。	わからない
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	8	1	打ち合わせで送迎の確認や施錠確認が必要な児の確認をしている。	学校によって情報共有が難しい。
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	6	3	就学前に利用していた保育園等は把握できていない部分がある。	
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	5	4	対象児童がいない。	わからない
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	7	2	自分自身研修参加は足りていないと思う。	わからない
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	5	4	地域の老人施設との交流を図っている。 近隣の学童イベントへの招待をしている。 図書館では見つけたい本があったらこどもが自分から係りの方に話しかける姿があり、成長を感じることがありました。 長期休暇の行事等で交流できるタイミングがある。	あいよる21で同じスペースで遊ぶことはあったが交流はできていないので、交流する機会があっても良いと思う。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	6	3	私自身は参加していないが、管理者が参加している。 管理者・児発管が参加している。	自立支援協議会（こども部会、権利擁護部会）に参加している。スーパーバイズについて、地域の課題なのではないかと考えています。
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	9		直接お会いする機会が少ない保護者様にも連絡ノートで伝えられるように努めている。 送迎時に当日の様子を伝える等、共通理解を図れていると思う。	交流できる機会はあるが、少ない。一方で、個人情報の問題や普段小学校や園から通っている児に放課後の時間でも積極的に交流することを進めることが重要なのかと考える。
35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	6	3	管理者・児発管が連携をとっている。 親子通所で開催しているが、デイの利用児はいない。	子育てのお悩みを相談できる場を設けても良いと思う。	
36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	9		管理者が行っている。		

保護者への説明等	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、子どもや保護者の意思の尊重、子どもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、子どもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	9		都度、管理者・児発管が行っている。	
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	9		管理者・児発管が行っている。	
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	9		送迎時など、保護者様が困っていることなど、話しやすいよう普段からコミュニケーションをとっていく。 管理者・児発管が行っている。	
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。	6	3	保護者会ではないが、親子通所は開催している。	父母会が必要な理由が不明。
	41	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	9			
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	9		毎月、ホームページのブログやInstagramの更新がされている。 ホームページのブログは、パスワードをかける等工夫がされている。	
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	9		個人の携帯での撮影は禁止されている。また事業所LINEでの情報共有内容も制限されている。 書庫などで保管しているため、外部の方が訪問してきても見えないので十分に配慮してあると思います。	
	44	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	9			
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に関わった事業運営を図っているか。	9		ととてツナガルFESや七夕・クリスマスなど、らしささんとの交流を今後も続けていきたい。 ととてツナガルFESにて近隣住民の方を招待している。	
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	9		送迎車のボーチにそれぞれマニュアルが入っていて、送迎先で避難するためのマップがついていてわかりやすい。	フローチャートの内容を見直したい。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	9		実際に、地震や津波警報が発令された時に、避難したことで、より良い訓練への姿勢が変わったと思う。	法定研修は決められた回数の実施をしている。一方で、内容は工夫が必要だと感じる。
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	9			わからない
	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	9		おぼんやテーブルを分けたり、おやつやの保管にも十分に気を付けている。 医師の診断書はないが、アレルギーのある児に対しては、別テーブルを用紙する等して対応している。	アレルギー児への飲食の提供は行っていない。持参したものを食べてもらっている。
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	9		管理者が作成し、説明を受けている。	
	51	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	9			
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	9			
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	9			
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	9				